

リーディングDXスクール事業【実践事例】

西米良村立村所小学校（宮崎県）

【取組内容①】 学校と家庭をつなぐコネクト学習の学びを活かした授業づくり

1人1台端末（持ち帰り端末）を効果的に活用したコネクト学習により学校と家庭をつなぎ、確実に学んだことを定着させ、児童生徒が主体的・協働的に学び合うことができる授業



主体的な学びや 確かめの充実

協働的な学びや 習熟・発展の時間の充実

指導の個別化

興味関心、自己表現・学習の深化の充実

ものが燃えるしくみ (小学6年)

【問いをつかむ段階】

指導計画（全8時間）

次	主な学習内容及び学習活動
第一次	<ul style="list-style-type: none"> ものが燃えるためには、何が関係しているのか、ものが燃えるしくみについて調べる。 缶の下の方に穴を開けるとよく燃えるのは、空気とどんな関係があるのかについて調べる。 <p>（コネクト学習活用型）</p> <p>※ 各自の興味関心に基づいたテーマを設定し、家庭で情報収集・整理分析、まとめを行い、単元末に全体で共有する。</p>

単元を通して取り組む課題を一人一人が設定する（コネクト学習活用型）

ものが燃える方と空気の動きだし、予想や仮説をもとに再現している。

線香やろうそくなどを目的正しく使って、空気の動きをみる。（行動観察）

【考えをもつ・問いを解決する段階】

電子黒板に投影しながら全体発表を行い、課題や共通点に気付かせることで、対話的で深い学びに繋がった。

学びの充実



児童はGoogleスライドを活用して学びを整理していた。教師が助言していくことで、児童は短い時間で修正を行うことができていた。

グループでの話し合いでは、話し合いマニュアルを活用し、発表・共有を図った。



【まとめる・確かめる・振り返る段階】

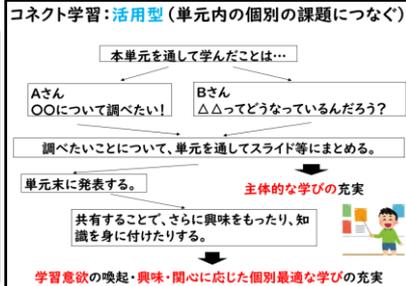
本村における焼却施設での燃焼の様子や施設インタビュー動画を視聴し、後日お礼の手紙をGoogleスライドで作成し渡すことで、本学習と日常生活での事象を結び付けさせ村民との対話的な学びの機会を確保できた。

振り返りをテキストマイニングし、児童の考えの傾向を共有することで、未来の社会貢献や将来の夢などについて児童同士の気付きや考えを深めることにつながった。

コネクト学習のねらい

【1人1台端末（持ち帰り端末）の効果的活用】

- ① 学びに連続性をもたせる
- ② 時間を効率的に使う
- ③ 主体性を高め、確実な学びにつなげる



【取組内容①】 学校と家庭をつなぐコネクト学習の学びを活かした授業づくり

思考ツールの活用

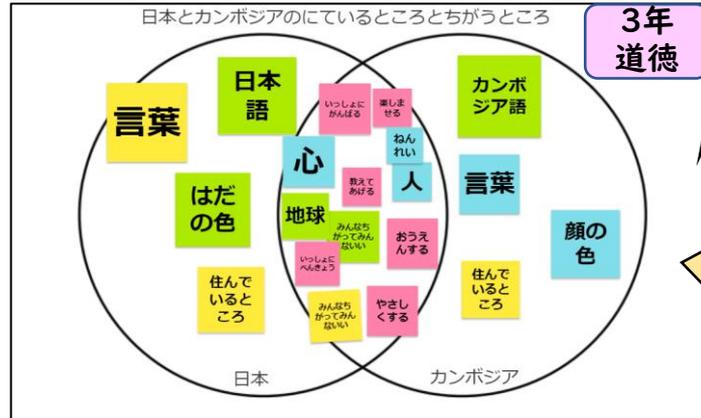
思考を深めるヒントカード



	思考スキル	思考ワード	思考ツール
1	比べる	○ 同じ（違う）ところはどこかな？ ○ ～と～を比べるとどうかな？	・ベン図 ・マトリックス ・座標軸
2	分ける	○ 同じ仲間に分けてみようよ。 ○ まとめてみると～だね。	・X, Y, Wチャート ・くま手チャート ・マトリックス ・ベン図 ・データチャート
3	いろいろな見方で	○ 立場を変えて考えてみよう。 ○ ～さんはどうやって考えたんだろうね。	・X, Y, Wチャート ・マトリックス ・PMI ・バタフライチャート
4	つながり	○ 知っていることとのつながりはどうかな？ ○ 前の学習は使えないかな？	・マッピング（イメージマップ） ・くらげチャート ・コンセプトマップ ・同心円チャート
5	順序	○ どんな順番で考えるといいかな？ ○ 優先させることは何だろう？	・ステップチャート
6	しぼる	○ 大事なことは何かな？	・ピラミッド ・KWL ・X, Y, Wチャート ・フィッシュボーン ・プロットダイアグラム
7	組み立て	○ どうつながっているのかまとめよう。	・フィッシュボーン ・ピラミッドチャート ・プロットダイアグラム ・コンセプトマップ ・ステップチャート

思考ツールの種類やどんな時に思考ツールを使えばいいかを示したヒントカードなどの掲示物を作成して、教室に掲示し、児童全員に配付した。

ベン図



3年 道徳

「カンボジアと日本」の違いと共通点について考えさせた。

ベン図を活用することで、それぞれの違いが明確になり、そこから共通点を考えることで、より児童の考えを深めることができた。

ピラミッドチャート



5年 社会

新聞がわたしたちのもとに届くまでどのようなことに気を付けて配達されているのかについてまとめさせた。

ピラミッドチャートで優先順位を考えることで、より大事なことを考える手助けをすることができた。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

西米良村立村所小学校（宮崎県）

【取組内容③】 端末の日常的な持ち帰りによるコネクト学習の充実

端末の日常的な持ち帰りの中で、授業とつなぐ家庭学習の在り方を工夫

コネクト学習
復習型

コネクト学習：復習型（学校から家庭に学習をつなぐ）

今日の勉強について宅習で振り返ろう！



Aさん
ノートを見て勉強しなおそう！

Bさん
タブレットを使って勉強しなおそう！

ドリルを使ってさらに
に復習しよう！

AI型ドリルを使って
難しい問題に挑戦し
よう！

OOについてタブレッ
トでさらに調べよう！

主体的な学びや確かめの充実

家庭学習の充実



問いをつかみ、考えをもつ



家庭での自分の考え

身長は0.4mのドリグリ

身長 かけ かけ

身長 60cm

身長 1.50m

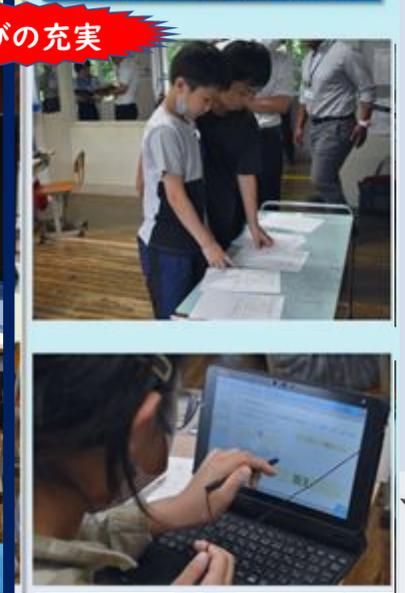
0.4 × 4 = 1.60

0.4 × 4 = 1.60

問いを解決する



まとめ、確かめ、振り返る



学びの充実

授業を充実させ、「確かめる」時間を、更に家庭につないで行う

コネクト学習復習型では、家庭学習を充実させ、音読機能を用いて、読み声などを行ったり、授業の復習としてAI型ドリル学習等を用いて補完学習を行ったりしている。また、先生から出された問題を解いて提出している。

児童の変容

習熟場面を家庭につなぎ、家庭学習の中で取り組むことで、自分のペースで取り組むことができ、学びの充実につながっている。



リーディングDXスクール事業【実践事例】

西米良村立村所小学校（宮崎県）

【取組内容③】 端末の日常的な持ち帰りによるコネクト学習の充実

家庭での学びを授業につなぎ、協働的な学びの時間の確保、学びの充実を図る

コネクト学習
予習型

コネクト学習：予習型（家庭から学校に学習をつなぐ）

家庭で学習課題について考える
(考える時間の確保)

Aさん
分かった!

Bさん
〇〇かな?

Cさん
なんとなく△△
かな…?

学校で〇〇について聞いてみよう!

対話的な活動や習熟・発展の時間の充実

小学2年の生活科の実践

しらべたやさいのお世話のしかたや、
これまでしてきたお世話のしかたを
まとめよう。



小学3年の特別活動の実践

食事のマナーで気を付けている
ことをまとめよう。



黒板に授業の流れを示し、コネクト学習の
充実を図っている。

家庭学習で
行ってくる

つかむ

考えをもつ

個人

時間の確保

解決する

学びの充実

グループ

確かめる

全体

まとめる

ふり返る



調べた野菜のお世話の仕方やこれ
まで自分がしてきたお世話の仕方
について自分の意見をまとめておく
ことで、協働的な学習の時間の確保に
つながり、より自分の考えを深める
ことができた。



食事のマナーについての授業を行うに
あたり、事前に課題を与え、その課題
について自分の考えをまとめておくこと
で、対話の時間や実際に食事のマナーを
練習する時間を確保でき、より実践に
近い学習を行うことができた。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

西米良村立村所小学校（宮崎県）

【取組内容④】 協働的な学び合いにするための校内研修・小中合同研修の在り方

Google WorkspaceやMicrosoft Teamsを活用した効果的な研修の工夫

研究の基本的な考え方

主体的・協働的に学び合い、創造性豊かな児童生徒の育成

～1人1台端末の活用により学校と家庭をつなぎ、確実な学びの定着を図る授業づくりを通して～



目指す授業

1人1台端末を効果的に活用したコネクト学習により、学校と家庭をつなぎ、確実に学んだことを定着させ、児童生徒が主体的・協働的に学び合えることができる授業

西米良村小中合同主題研究会

「授業改善」をねらいとした実践的研究スタイル

西米良村小中合同主題研究会は、村内小・中学校の職員が一堂に会し、教育実践を通して児童生徒の教育的な課題の解決を図っています。

小中合同授業研究会

毎年、小・中学校で1本ずつ、研究主題に沿った研究授業を行っている。その後、協議会を設けることで、授業改善に役立っている。クラウドの活用により、意見の共有や保存を容易にしている。



校内研修の工夫と実践1

協議①

授業の中でうまくいったところは？
改善が必要と感じたことは？

コメント〈抜粋〉

・コネクト学習で前もってYチャートを入れたシートにしていることで、すでに分けた状態で入力した児童がいた。次回は更に工夫が必要である。

協議②

研究主題の協働的に学び合うとはどんな姿？

コメント〈抜粋〉

・自分とは異なる考え方に触れながら、学びを深める学習
・自分の意見を他者に伝える



共有シートに書き込んだものをもとに、小グループで協議を行い、全体で発表し合った。

小中合同での模擬授業

小・中学校合同で模擬授業を行い、異なる学校種の先生方と協議をしながら、様々な視点で授業力の向上、より良い授業改善に役立った。協議の祭にクラウドを活用することで、意見の集約や共有が容易になり、深まりのある会となった。

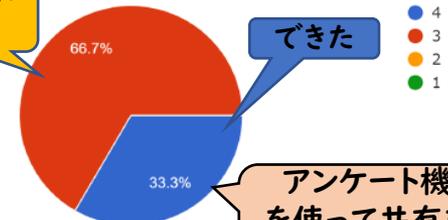


職員にとってアンケート〈抜粋〉

⑧ 思考ツールを活用するなど、協働的に学習するための手立てを図った。
9件の回答

だいたいできた

できた



アンケート機能を使って共有を図った。

リーディングDXスクール事業【実践事例】

西米良村立村所小学校（宮崎県）

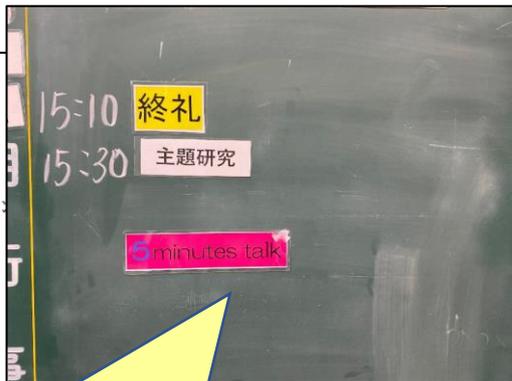
【取組内容④】協働的な学び合いにするための校内研修・小中合同研修の在り方

学びの連続性、継続性をもたせるための工夫

校内研修の工夫と実践2

OJTの活性化

- 本日のねらいについて
- 研修内容
 - 本校のICT活用について
 【教師用】職員室PC、教師用TB、教室PC、プリンター
 ※パスワード（ ）
 【児童用】学校用TB、家庭用TB
 ※パスワード（ ）
 - 情報教育年間指導計画について
 ※別資料参照
 - 学習活動ソフトウェア「5minutes talk」
 - 白紙に書き込んで白
 - マッピング
 - グルーピング
 - フローチャート
 - 画像合成



終礼のたびに「5minutes Talk」
として、OJTの時間を設定した。

「5ミニッツトーク」で♪

1年目の先生もすぐに授業でICTを活用できるように、4月入ってすぐにICTの操作研修を行った。

また、月曜日、水曜日に行われる終礼の後に「5minutes talk」として、困ったことや活用方法などをお互いに聞きあう時間を設定している。

教師から教師のOJTはもちろんのこと、児童から教師、児童同士のOJTも行われている。児童同士のOJTは、水曜日の昼の活動「ICTの時間」で行われている。

「西米良授業チェック表」を活用した教師の授業の振り返り〈抜粋〉

令和5年度 「西米良授業チェック表」

大項目	中項目	小項目
1 単元全体を見通した評価計画のもと、一単位時間の中で「めあて」と「まとめ」の整合性のある指導が行われているか？	(1) 1単位時間の授業の中で評価	① 「何を」、「どこで」、「どのように」評価するか、計画どおりにできた。
	(2) 定着や習熟・確かめ・振り返りの時間を十分確保し、個に応じた指導を工夫できた。	② 一人一人の評価（見届け）ができた。本時の目標を達成できた（ ）人。 ③ 定着や習熟・確かめ・振り返りの時間を十分確保し、個に応じた指導を工夫できた。
	(3) めあてとまとめの整合性ある指導が行われる	④ 振り返りで、自己の成長を振り返り（自覚）、新たな学びに向かわせることができた。 ⑤ 本時の目標に対して、子どもの言葉を用いて、整合性のあるめあてとまとめを立てることができた。
2 指導の内容が精選されており、テンポや間に配慮して授業を進めているか？	(1) 指導内容の精選	⑥ 単元あるいは1単位時間の中で、「しっかり教える内容」と「じっくり考えさせる内容」を意識して指導できた。
	(2) テンポや間の配慮	⑦ ICTの活用を図るなど、テンポよく進め、時間短縮を図った。
3 授業の内容は子供の実態にマッチしているか？（平均をやや下回る子供も理解できる内容か？）		⑧ 思考ツールを活用するなど、協働的に学習するための手立てを図った。
		⑨ 対話的な学びをすることで、子どもの考えを広げたり深めたりすることができた。
4 教師の指示や発問は的確で、子供に伝わっているか？		⑩ 指示が的確で、子供に伝わった。（言葉を選ぶ、声の大きさ、速さ、抑揚など）

教室の机の上など見えるところに貼って、いつでも自分の授業をチェックできるようにしている。

また、定期的に、Google Formsを活用して、全体で共通理解することで、日々の授業改善に努めている。